

水路新技術講演会 プログラム

日 時:令和 2 年 2 月 27 日 (木)

13 時 30 分~17 時 30 分(13 時 00 分開場)

会 場:中央合同庁舎第 4 号館 共用 220 会議室

住 所:東京都千代田区霞が関 3 丁目 1 番 1 号

主 催:海上保安庁 海洋情報部

共 催:一般財団法人 日本水路協会



◆交通手段◆

東京メトロ 千代田線・丸ノ内線・日比谷線 「霞ヶ関」駅下車、徒歩 5 分

発表【13:30～17:35】

開会挨拶

13:30～13:35 海上保安庁 海洋情報部長 加藤 幸弘

セッション1:新たな価値を創造する海洋情報

基調講演 I

(1)13:35～14:25 海洋産業における情報の役割
東京海洋大学 副学長 庄司 るり

14:25～14:30 (休憩)

基調講演 II

(2)14:30～15:20 自律運航船フレームワークと情報の標準化
株式会社 MTI 船舶物流技術部門長 安藤 英幸

15:20～15:25 (休憩)

口頭発表

(3)15:25～15:45 航海情報の新時代
～S-100が拓く新たな世界～
技術・国際課 海洋研究室 服部 友則

(4)15:45～16:05 海の今を知る「海しる」
～海の見える化はじめました！～
海洋情報課 海洋空間情報室 桂 幸納

16:05～16:15 (休憩)

セッション2:一般テーマ

(5)16:15～16:35 科学的な地理情報を社会が共有する努力
～近代海図刊行のはじまり～
海洋情報課 矢吹 哲一朗

(6)16:35～16:55 南海トラフ巨大地震の解明につながる海底観測
～海域におけるゆっくりすべりの全体像～
技術・国際課 石川 直史

閉会挨拶

16:55~17:00 技術・国際課長 藤田 雅之

ポスター展示【13:30~17:35】

ポスター発表（コアタイム：17:00~17:30）

- P01 明治初期刊行海軍海図の国内外の図書館等の所蔵状況
海洋情報課 佐藤 敏

- P02 2019年までに得られた海底地殻変動観測の成果と観測点の新設
海洋調査課 海洋防災調査室 海底地殻変動観測チーム

- P03 伊豆・小笠原弧におけるカルデラ形成を伴う火成活動
～海徳海山の学際的研究へ向けて～
技術・国際課 海洋研究室 小原 泰彦

- P04 日本沿岸海域におけるChart Adequacyの評価手法の適用例と改善策の検討
技術・国際課 海洋研究室 小川 遥

- P05 深海マッピングの国際大会Shell Ocean Discovery XPRIZE優勝で実証した無人海底地形調査ソリューション：GEBCO-Nippon Foundation Alumniチームによる革新的技術の開発
技術・国際課 海洋研究室 住吉 昌直

- P06 楕円体高基準の水路測量とは？
～基本コンセプトの紹介～
技術・国際課 海洋研究室 住吉 昌直

- P07 水路測量での短期平均水面比較による平均水面の推定
海洋情報課 佐藤 敏

- P08 欠測の長さに対する調和定数の感度
環境調査課 土屋 主税

- P09 グリッド・時系列流速・流向データを用いた流況予測手法の検討
技術・国際課 海洋研究室 宗田 幸次

- P10 新造大型測量船「平洋」就役
海洋調査課 大陸棚調査室 中川 正則